

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年2月28日

31号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

市長に、議会にそして何よりも市民の皆さんに！！

私たちの声を届けたい！

折からの雨が、みぞれに変わろうかというような寒い日の午後、横浜市役所の庭に 1000名あまりの障害者や家族、地域作業所の職員などが集まりました。

これまで不十分であっても下がることはなかった障害者地域作業所への補助金が、15年度予算案では削減されたからです。横浜の障害者の地域生活支援の場は、親や当事者、職員やボランティアの協力でコツコツと作り上げられてきましたが、その日々の努力も「一歩一歩少しづつでも改善され進歩するのだ」という励みがあって頑張ってきたのです。

その歩みに逆行するようなことを、黙って納得することは出来ません。

* * *

昨年の末に、国は障害者施策の新たな基本方針「新障害者基本計画」を決めました。このプランの最大の特徴は施設入所から、地域で暮らす“脱施設”を打ち出したことです。(北欧や欧米では、すでに70年代から取り組まれてきたことです。)

しかし、障害者が地域の中で暮らしていくには、グループホームや、日中通う作業所や活動ホームの充実、そして在宅生活を支えるさまざまな仕組みが必要なはずです。

私たちの声がどこまで届いているのでしょうか！

地域交流バザーのお知らせ

日時： 3月29日（土）10時30分～2時

場所：グループホーム「よつばホーム」

港北区新吉田町5623（九州石油スタンド隣） TEL 045-591-7040

内容：雑貨、衣類など提供品や手づくり食品の販売。喫茶。

*資金作りを兼ねて、グループホーム「よつばホーム」を知っていただくための交流バザーを行います。お誘い合わせお出かけください。

また、販売品のご提供もお願いします。



未来を目指してがんばりましょう

新吉田地区社協会長 石井 正雄

不況で世知辛くなり、人々は自分の利害のみを考え、権利ばかり主張して義務を果たさず、「巧言令色、少なきかな、これ仁」の世相になって参りました。

このような時勢に、親から授かった一つの命を、幸か不幸か障害のある身となられた方々を、温かく見守り、身近で手助けをしてあげる職員の方々、まさに聖職者であり、私達は心から感謝致し、頭が下がる思いです。

昔から、「天は自ら助けるものを扶ける」と言われております。障害のある皆さん、介助される皆様には、いつか必ず、輝ける未来の人生が、天より授かる事を信じて、祈念申し上げる次第です。

私達の地区社協も、皆様方のご心痛、ご苦勞などをお察し致し、これからも応分の配慮を致したいと考えております。どうぞ、お互いに未来を目指してがんばりましょう。



迷いながらも楽しく

港北区ボランティアセンター

運営委員長 井上 禮子

私がボランティアに関わる様になりまして、22年になります。ほんの気楽な気持ちで入って行ったのですが、ボランティアをすればするほど難しく、厳しく、又楽しいものはないような気がします。ボランティアを頼まれ何処までの頼みに答えていけばよいのか？きちんとした結果が出ない時は自分としてどうすればよいのか？迷うことがたくさんあります。でも楽しいことがたくさん在る事によって支えられ、22年間やってこられたのではないかと思っております。これからもこの楽しみを一つでも増やしていけるようにボランティア活動に精をだして行きたいと思えます。

市民活動フェア参加 写真展

重度障害者の生活と表情をつたえる写真とパネル展

日時： 3月15日（土）～16日（日）

場所： かながわ県民活動サポートセンター10階 喫茶コーナー
横浜駅西口 三越の裏隣

* 昨年秋、大倉山のギャラリーで開催した写真展の作品に、新しいものを加えます。

少しでも多くの人に、重度障害者の生き生きとした表情を伝えたい... という情報発信の活動の一つとして参加します。当日は、さまざまな団体83団体の参加で賑やかに行われます。フリーマーケットもありますのでお楽しみがてらお出かけください。



我家の下はグループホームフレンズ

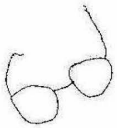
花陽の会 代表 三上 文子

ガッタン、ゴットン、列車の走るような音が夜になると二階の我が家に響きます。今日は誰が先に入るのかしら？ 全介助者用リフトが浴室に向かう音です。時には朝かすかに歌声の聞こえてくることもあります。木造ですから当然二階の騒音も伝わっている筈です。「ひじきを煮すぎたの、手伝ってね」「ワーッ嬉しい、みんな大好きで一す」今日も元気な様子。何事もなさそうかな、と微笑ましく感じます。(静かすぎると誰か体調が悪いのかしら？と心配にもなります)

明けてもくれても「箏・こと・コト」一見優雅にみえそうですが、体力勝負、精神力勝負のせわしい日々の中で、こうした声や生活の音が聞こえますと心がなごみ、一人で笑ってしまうこともあります。

グループホームよつばホームの皆さんも地域の方々と交流しながら、仲良くおくらしでしょう。何ひとつお手伝いできずごめんなさい。街中に小さなグループホームが沢山出来ることを願ってやみません。

めがねのこえ



この前「神奈川障害者の地域生活を考えるつどい」がありました。

チラシを見たら、私の知っている小川義道さんが話すを書いてあったので、私も母と一緒に行きました。

障害者が生活していくのに大切なことや、考えかたなどについてのお話しでした。

小川先生は 七沢更生ホームや、その後も仲間作りのグループなどでも 一緒だったので、とてもなつかしかったです。

グループホームや、地域に住んで活動ホームなどにかよう生活をするのにも、自分の時間や生活を自分がやりたいように決めて行くことが大切です。でも、なかなか出来ない人も多いので、そのために 相談にのってくれる人が必要だということでした。私が聞いていても よくわかりました。

4月から支援費の制度になると、「自分で選んで自分で決めて契約をするのだ」といっても、障害者はいろいろと不自由なので、少し困ると思います。これからのことを いろいろと一緒に 考えてくれて、そのあとも見まもってくれる人がほしいです。そして仕事として見まもる人 だけでなく、Aさんのように家族が病気になったり、Bさんのようにだき上げられなくなったり、急に困ったことが出来たときなど、ちょっと立寄って手伝ってくれる人がとなり近所にいるといいなと思います。 友だちみたいに気軽に相談にのってくれる人がそばにいと、障害のある人も家族も暮らしやすいと思います。

大原友子

今月のよつばホーム

2/26 在援協主催の職員研修において、グループホームの中で訪問看護を利用しているのがよつばホームだけだという事で、菅原が講師を依頼されました。

今月は、その時の資料を抜粋してご紹介します。

①グループホーム準備段階

入居予定者の中に重心の方がおり、グループホームをスタートするにはどうしても医療との連携が必要であった。準備の段階から在援協の方にも会議に出席してもらい、医療との連携をどうしたら取れるかと話し合いをもった。

在援協の方より、グループホームも家と同じなのだから、訪問看護に来てもらっては・・・とアドバイスをいただき、入居者それぞれが申し込みをし、グループホームのスタートと同時に訪問看護サービスを利用できる形をとる。また、主治医とは別のホームドクターも紹介をしてもらう。

②負担金： 入居者が生活保護、もしくは医療費10割給付なので負担金はゼロです。

③訪問回数： 基本的には、1回の訪問で全員が診てもらっています。

初めのうちは、実家からグループホームの生活に変わり体調の変化があるだろうと予測し月に2回来てもらっていましたが、あまり大きな体調の変化もみられなかったので、2ヶ月を経過してから現在までは基本的には月に1回の訪問です。

④看護内容： 病状の観察 検温・脈・血圧・肺音・動脈酸素飽和度の測定など

情報収集 入居者それぞれの1ヶ月の様子を職員が報告し個人にあわせ 個人的な相談に対して、指示を出してもらう

緊急対応 24時間連絡が可能な体制になっています。

入居者が高熱を出したり嘔吐があったときなどに緊急対応

⑤訪問看護のメリット

a) 通院が困難な方も定期的に診察を受ける事ができる。

b) 入居者本人、家族の方も医療との連携が持たれている事により安心してグループホームでの生活を送れる。

c) 家での診察のため、落ち着いた環境で診察を受けられる。

d) 職員が安心して入居者へのケアにあたれる。

入居者家族の声

花岡 満子

人との関わりを敏感に気にして興奮をしたりしますが、自分から声をかけたりしてだいぶ生活にもなれて、楽しんで過しております。 体調の変化が気温の差によって違うので、風邪をひき出すと気管を刺激して、咳が長く続いてしまいます。まわりの方々には迷惑をかけております。これからも職員やボランティア、ヘルパーさんにお世話をおかけしますがよろしくお願ひします。